



第75期 中間事業報告書

平成17年11月1日 ▶ 平成18年4月30日



株式会社 **ミロク**

証券コード：7983

トップメッセージ

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第75期（平成17年11月1日から平成18年10月31日まで）の中間事業報告書をお届けいたします。

今後とも株主の皆様から厚いご指導、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



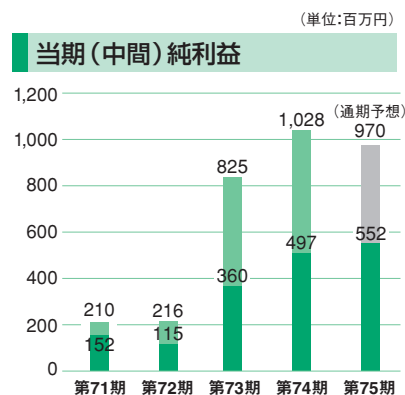
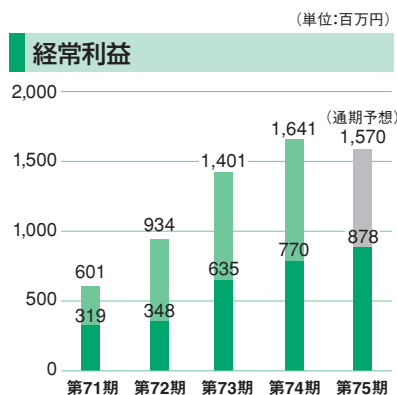
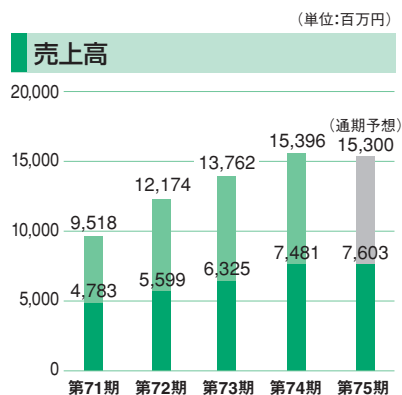
平成18年 7月

代表取締役社長 彌勒 美彦

ハイライト情報(連結)

■ 中間 ■ 通期

Financial Highlights



中間決算の概要

不断の企業努力で、好調を堅持いたしました。

当中間連結会計期間の日本経済は、好調な企業収益を背景に、設備投資や個人消費が順調に伸長し、全体的には回復基調で推移いたしました。

ミロクグループの事業も好調を堅持し、当中間連結会計期間の連結売上高は76億357万円（前年同期比1.6%増）、経常利益8億7,830万円（前年同期比14.0%増）、中間純利益5億5,202万円（前年同期比11.0%増）となりました。

この実績は、当社グループが生産効率の向上を図るなどの原価低減に積極的に取り組むとともに、企業価値を向上させるべく、製品の市場競争力の強化に注力してきた結果だと考えております。平成18年4月11日には連結子会社である㈱ミロク製作所が、中小企業庁の「元気なモノ作り中小企業300社」に選出されました。

戦略と課題

三事業を中核に据えた戦略をより強く志向します。

今後も当社グループは、資本効率を追求した経営体制の確立とコスト構造の改革を実施し、経営効率向上に努力してまいり所存です。中長期的な経営戦略としては、猟銃・工作機械・自動車関連の三事業を中核に据えた戦略をより強く志向してまいります。

猟銃事業の課題としては、購買意欲をより一層刺激する新製品の開発とタイムリーな市場投入、そして高付加価値・高品質化の実現、さらには生産工程・業務の見直しによる生産革新活動を推進し、利益の確保を図ってまいります。

工作機械事業は、安定した収益が見込めるツール部門と加工部門の拡充が当面の課題です。長期的には日系企業に的を絞った海外需要の獲得が、さらなる飛躍のカギを握ると考えております。

また自動車関連事業の命題は、トップライン（売上）の成長にあります。そのためにはトヨタ生産方式の本格的展開による継続的改善、新たな製造技術の導入が不可欠です。さらに、純木製ハンドルに的を絞った事業の深耕と新分野への飛躍が課題になります。

今後の見通し

通期においては当初の公表数字を上回る見通しです。

通期におきましては、グループ一丸となった収益改善活動の展開で収益確保に努めるとともに、工作機械事業の好業績などにより、当初の公表数字を上回る見通しです。通期の連結業績予想としては、売上高153億円、経常利益15億7,000万円、

当期純利益9億7,000万円を見込んでおります。

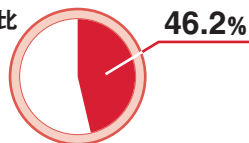
また、平成17年11月に、3年後の平成20年10月期中期経営計数目標（連結）を売上高167億円、経常利益17億5,000万円と設定し、必達に向けた一層の努力を続けていく所存であります。

事業別営業概況

猟銃事業

売上高 **35億1,767万円**

売上高構成比



Citori



A-BOLT



Cynergy



BLR



BPS



MODEL 1885

営業概況

ミロク製作所を中心とした猟銃事業におきましては、主力となる米国市場は原油高の影響による買い控えに加え、当社新製品投入の端境期が重なり、さらに近年は、ロシア、トルコなどが台頭し、価格競争がこれまで以上に激化してきました。そのため、販売数量はショットガン、ライフルともに前年を下

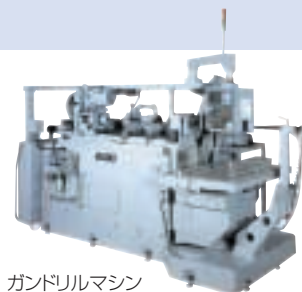
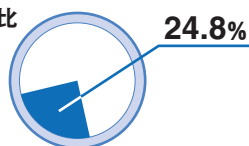
回り、前年同期比16.6%の減少となりました。

以上の結果、売上高は35億1,767万円（前年同期比9.5%減）、営業利益は3億1,572万円（前年同期比24.1%減）となりました。

工作機械事業

売上高 **18億8,958万円**

売上高構成比



ガンドリルマシン



ガンドリルツール

営業概況

ミロク機械による工作機械事業は、自動車・金型関連業界による受注が堅調に推移し、機械部門・ツール部門・加工部門の主要三部門は売上・利益ともに前年同期を上回りました。その結果、売上高は18億8,958万円（前年同期比27.7%増）、営業利益は4億7,109万円（前年同期比96.2%増）と

なりました。

また、ガンドリルツールおよびラッピングマシン用定盤等の消耗品の生産能力を増強するため、平成18年5月に定盤生産ライン用の工場物件を取得し、またガンドリルツール生産工場を増改築することを決定いたしました。

自動車関連事業

売上高 **21億8,650万円**

売上高構成比



ウォールナット(くるみ)製



メイプル(かえで)製



シフトノブ



レザーコンビネーションスイッチ

営業概況

ミロクテクノウッド（持分法適用関連会社）が展開する自動車関連事業は、引き続き順調に推移しております。主力の純木製ステアリングハンドルの販売数量は、好調であった前年同期の水準を維持。さらに、ウッド調ステアリングハンドルとシフトノブは、特需的な期間限定車種への販

売と搭載車種への装着率が増加したことなどにより、前年同期を上回る業績となりました。

その結果、売上高は21億8,650万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は1,387万円（前年同期比2.4%減）となりました。

その他事業

売上高 **1,379万円**

売上高構成比



営業概況

猟銃用木材の耐候性研究から生まれた独自の含浸技術を屋外建築用木材に応用した「ミロモックル製品」を扱うのがミロモックル事業です。当事業は公共投資の低迷などが



愛知県名古屋市中区／徳川園



広島県豊田郡本郷町／中央森林公園・三景園

ら厳しい環境が続き、売上高は1,379万円、営業損失は802万円となりました。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間連結会計期間末 (平成18年4月30日)	前連結会計年度末 (平成17年10月31日)
資産の部		
流動資産	6,782,133	6,266,567
現金及び預金	894,441	937,520
受取手形及び売掛金	3,253,137	2,744,445
たな卸資産	2,329,097	2,335,592
繰延税金資産	157,080	89,691
その他	174,421	181,051
貸倒引当金	△26,044	△21,733
固定資産	8,037,578	7,846,212
有形固定資産	4,195,345	4,288,887
建物及び構築物	1,037,345	1,065,028
機械装置及び運搬具	1,853,521	1,922,421
土地	1,097,819	1,105,188
その他	206,659	196,248
無形固定資産	97,858	108,163
連結調整勘定	11,320	15,248
その他	86,537	92,914
投資その他の資産	3,744,374	3,449,161
投資有価証券	2,667,392	2,339,753
繰延税金資産	354,216	332,893
その他	922,491	968,386
貸倒引当金	△199,725	△191,872
資産合計	14,819,712	14,112,780

(単位:千円)

科目	当中間連結会計期間末 (平成18年4月30日)	前連結会計年度末 (平成17年10月31日)
負債の部		
流動負債	5,087,158	5,036,681
支払手形及び買掛金	2,239,167	2,100,390
短期借入金	1,800,000	1,800,000
未払法人税等	389,757	341,447
繰延税金負債	1,068	1,322
賞与引当金	266,644	120,847
役員賞与引当金	33,327	—
その他	357,192	672,673
固定負債	2,635,568	2,527,315
社債	500,000	500,000
長期借入金	800,000	800,000
繰延税金負債	287,541	202,935
退職給付引当金	698,793	625,509
役員退職慰労引当金	345,182	392,882
その他	4,051	5,988
負債合計	7,722,726	7,563,996
少数株主持分		
少数株主持分	9,778	11,087
資本の部		
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	519,289	519,267
利益剰余金	5,340,525	4,914,469
株式等評価差額金	429,575	302,945
為替換算調整勘定	821	181
自己株式	△66,131	△62,294
資本合計	7,087,206	6,537,696
負債、少数株主持分及び資本合計	14,819,712	14,112,780

中間連結損益計算書

(単位:千円)

科 目	当中間連結会計期間 (自 平成17年11月1日 至 平成18年4月30日)	前中間連結会計期間 (自 平成16年11月1日 至 平成17年4月30日)
売上高	7,603,572	7,481,361
売上原価	6,095,309	6,090,542
売上総利益	1,508,262	1,390,819
販売費及び一般管理費	811,392	798,905
営業利益	696,870	591,913
営業外収益	199,615	205,418
受取配当金	13,272	8,367
持分法による投資利益	142,030	163,861
積立保険満期戻戻金	—	1,593
その他	44,311	31,595
営業外費用	18,180	27,220
支払利息	16,072	22,192
その他	2,107	5,028
経常利益	878,305	770,111
特別利益	15,870	3,434
貸倒引当金戻入益	—	3,415
保険金収入	15,870	—
その他	—	19
特別損失	26,575	21,423
固定資産除却損	1,396	2,925
減損損失	7,369	—
火災損失	—	18,498
入会金等評価損	14,180	—
その他	3,629	—
税金等調整前中間純利益	867,599	752,121
法人税、住民税及び事業税	399,330	433,442
法人税等調整額	△82,632	△179,269
少数株主利益又は損失(△)	△1,120	825
中間純利益	552,021	497,123

中間連結剰余金計算書

(単位:千円)

科 目	当中間連結会計期間 (自 平成17年11月1日 至 平成18年4月30日)	前中間連結会計期間 (自 平成16年11月1日 至 平成17年4月30日)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	519,267	519,030
資本剰余金増加高	22	237
自己株式処分差益	22	237
資本剰余金中間期末残高	519,289	519,267
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	4,914,469	4,069,534
利益剰余金増加高	552,021	497,123
中間純利益	552,021	497,123
利益剰余金減少高	125,966	124,188
配当金	59,311	59,358
役員賞与	66,655	64,830
(内監査役分)	(4,185)	(4,200)
利益剰余金中間期末残高	5,340,525	4,442,469

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科 目	当中間連結会計期間 (自 平成17年11月1日 至 平成18年4月30日)	前中間連結会計期間 (自 平成16年11月1日 至 平成17年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	289,137	894,755
投資活動によるキャッシュ・フロー	△252,466	△448,857
財務活動によるキャッシュ・フロー	△79,575	△229,989
現金及び現金同等物に係る換算差額	△175	17
現金及び現金同等物の増減額(△は減少額)	△43,078	215,925
現金及び現金同等物の期首残高	937,520	538,789
現金及び現金同等物の中間期末残高	894,441	754,714

中間貸借対照表

(単位:千円)

科目	当中間会計期間末 (平成18年4月30日)	前会計年度末 (平成17年10月31日)
資産の部		
流動資産	2,865,671	2,496,985
固定資産	5,377,935	5,269,050
有形固定資産	1,167,828	1,158,319
無形固定資産	1,888	2,278
投資その他の資産	4,208,218	4,108,452
資産合計	8,243,606	7,766,036
負債の部		
流動負債	1,845,534	1,831,582
固定負債	1,793,789	1,722,690
負債合計	3,639,324	3,554,273
資本の部		
資本金	863,126	863,126
資本剰余金	531,290	531,268
利益剰余金	2,834,093	2,552,493
株式等評価差額金	414,065	299,331
自己株式	△38,294	△34,456
資本合計	4,604,282	4,211,762
負債及び資本合計	8,243,606	7,766,036

中間損益計算書

(単位:千円)

科目	当中間会計期間 (自平成17年11月1日 至平成18年4月30日)	前中間会計期間 (自平成16年11月1日 至平成17年4月30日)
営業収益	535,303	481,472
営業費用	164,336	151,270
営業利益	370,966	330,201
営業外収益	60,235	42,421
営業外費用	16,576	24,780
経常利益	414,625	347,842
特別利益	—	301
特別損失	15,955	—
税引前中間純利益	398,670	348,143
法人税、住民税及び事業税	16,806	19,336
法人税等調整額	6,952	△10,473
中間純利益	374,911	339,280
前期繰越利益	495,394	277,251
中間未処分利益	870,305	616,532

ご参考(当中間期)

※平成18年6月21日開催の取締役会において、第75期の中間配当を行うことを決議いたしました。

1株当たり中間純利益(個別)	25円29銭
1株当たり中間純利益(連結)	37円91銭
1株当たり中間配当金	4円50銭

クローズアップ

Close
Up



意外と知らない？ 「ショットガン」と「ライフル」のここが違う！

TVや映画でカッコ良く使われるショットガン(散弾銃)やライフル銃。日本では所持や使用が厳しく規制されているため、一般の人が実物に接する機会がめったにありません。二つの銃の大きな違いは、ショットガンは1発で多数の小さい弾を近距離に散開させるのに対し、ライフルは1個の弾丸を遠くの標的に命中させることが可能な点です。

ショットガン



Citori

ライフル



A-BOLT

1 構造の違い

structure

銃身の内面は平滑で、発砲時の圧力はライフルに比べて低いので、構造はライフルよりも華奢です。軽量で重量バランスの優れたものが好まれます。種類としては単発銃、上下/水平二連銃、ポンプ/ボルトアクション銃、半自動銃等があります。また、銃身の口径によって12番、20番などに分かれ、適合する弾を使用します。

銃身の内面には弾丸に回転を与えるための旋条(ライフルリング)が形成されており、また発砲時の圧力が高いため、銃全体の構造がとても頑丈にできています。特に火薬の高圧を受ける銃身は、命中精度や耐久性を維持できる優れた材料が使用されます。種類としては単発銃、ダブルライフル(上下/水平二連)銃、ドリリング、レバー/ボルトアクション銃、半自動銃等があります。

2 性能の違い

efficiency

一般的な有効射程は約50mですが、使用する散弾のサイズやチョーク(散弾の散開度を調節する絞りの)の種類によって異なります。スラッグ弾を使用した場合の有効射程は約100m。近距離用の銃と言えます。発砲時の弾の初速は、散弾で秒速350~420m、スラッグ弾で550m程度です。

主に遠距離の射撃に使用されます。弾頭が重く、飛んでいくスピードも速いため、遠距離でも大きな獲物を倒すことができる強烈なパワーを持っています。弾の初速は口径によって異なりますが、秒速370m~1,100m程度です。

3 使用目的・ユーザーの違い

purpose & user

主な用途は狩猟と標的射撃(クレー射撃)。狩猟において散弾は鳥類、スラッグ弾はイノシシ、シカ、クマ等に使われます。標的射撃ではスキート、トラップ、フィールド、スラッグ射撃を楽しめます。銃の所持には各都道府県の公安委員会から「銃の所持許可」を得る必要があります。

主な用途は狩猟と標的射撃。狩猟ではイノシシ、シカ、クマ等に使われます。北海道などの広野で、スコープを装着して使用されるケースが多いようです。標的射撃は50m、100m、300mといった射程での正確さを競います。ライフル銃の所持には、10年以上の散弾銃所持実績が必要です。

会社概要

社名	株式会社ミロク Miroku Corporation
所在地	高知県南国市篠原537番地1
設立	1946(昭和21)年7月5日 2003(平成15)年5月1日持株会社化
資本金	863,126千円
従業員数	560名(連結対象子会社含む)
事業内容	猟銃事業 猟銃の製造および販売 工作機械事業 深孔加工機等工作機械・工具の製造 および販売 自動車関連事業 自動車用部品の製造および販売 その他事業 木工製品の加工および販売

連結子会社

株式会社ミロク製作所
株式会社ミロク精工
株式会社香北ミロク
株式会社梶原ミロク
ミロク機械株式会社
MIROKU MACHINE TOOL, INC.
株式会社馬路ミロク

役員

取締役会長	竹村 士郎
代表取締役社長	弥勒 美彦
代表取締役専務	田中 勝久
取締役	四手井 洋一
取締役	藤川 義男
取締役	荒井 瑞夫
取締役	深見 裕夫
取締役	P.ブルジョワ
取締役	C.グブラumont
取締役	近藤 久視
取締役	堀川 洋幸
常勤監査役	松浦 幸治
監査役	平田 豊治
監査役	紅露 昭男
監査役	山本 吾一

関連会社

株式会社ミロク工芸
ニッサンミロク株式会社
株式会社ミロクテクノウッド
T&M USA INC.
株式会社特殊製鋼所
株式会社ミロク興産

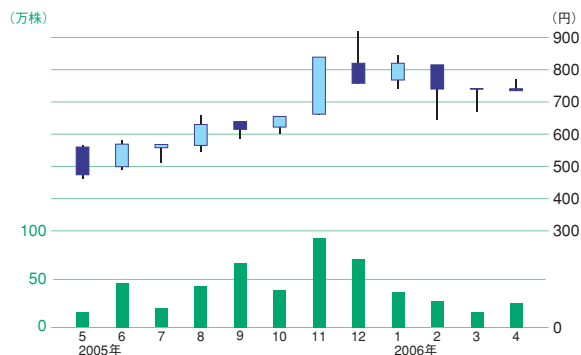
株式の状況

会社が発行する株式の総数 50,000,000株
 発行済株式総数 15,027,209株
 株主数 1,288名

大株主(上位10名)

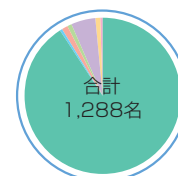
	持株数(千株)	出資比率(%)
ブローニング・アームズ・カンパニー (常任代理人 野村証券株式会社)	1,474	9.8
株式会社ミロク興産	997	6.6
日本興亜損害保険株式会社	789	5.3
株式会社四国銀行	710	4.7
株式会社高知銀行	665	4.4
株式会社西島製作所	577	3.8
ミロク共栄会	502	3.3
日本油脂株式会社	491	3.3
明治安田生命保険相互会社	444	3.0
日本生命保険相互会社	444	3.0

株価・売買高の推移



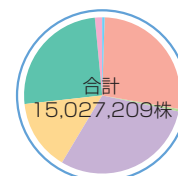
株式分布状況

所有者別株主数



政府・地方公共団体	1名 (0.08%)
金融機関	16名 (1.24%)
証券会社	12名 (0.93%)
その他の法人	74名 (5.75%)
外国法人等	12名 (0.93%)
個人・その他	1,172名 (90.99%)
自己名義株式	1名 (0.08%)

所有者別持株数



政府・地方公共団体	45,600株 (0.30%)
金融機関	4,105,623株 (27.33%)
証券会社	40,702株 (0.27%)
その他の法人	4,628,543株 (30.80%)
外国法人等	2,228,972株 (14.83%)
個人・その他	3,773,557株 (25.11%)
自己名義株式	204,212株 (1.36%)

ホームページのご案内

企業・製品・採用情報のほか、投資家情報コーナーも充実させ、財務データや決算短信などを公開しています。銃づくりの工程を分かりやすく紹介した「バーチャル工場見学」も好評です。ぜひご覧下さい。



URL <http://www.miroku-jp.com/>

株主メモ

事業年度…………… 毎年11月1日から翌年10月31日まで

基準日…………… 定時株主総会 10月31日
剰余金の配当 期末 10月31日
中間 4月30日

株主名簿管理人…………… 〒100-0005
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所…………… 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(フリーダイヤル)

同取次所…………… 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店

公告方法…………… 日本経済新聞に掲載します。

単元株式数…………… 1,000株

証券コード…………… 7983

■株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(フリーダイヤル)

0120-244-479(本店証券代行部)

0120-684-479(大阪証券代行部)

インターネットホームページ

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



株式会社 **ミロク** 高知県南国市篠原537番地1
TEL:088-863-3310



この報告書は、環境に配慮し、古紙配合率100%再生紙と大豆油インキを使用しております。